

■ 社会保障システム全体の見直しにむけ 政府「全世代型社会保障検討会議」が初会合

政府が新たに設置した「全世代型社会保障検討会議」の初会合が 9 月 20 日、開催されました。

会合では、いわゆる団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者になりはじめる 2022 年を見据え、▼社会保障システム全体の改革を議論し、▼70 歳までの就業意欲のある人の就業機会を作るために法制化、▼人生 100 年時代の到来を見据えた全世代型に対応するために高齢者、子ども、子育て世代、現役世代が安心できる年金をはじめとする社会保障全般のあり方について議論していくことが確認されました。

有識者メンバーからは、医療費抑制のために「年齢ではなく能力に応じた負担の議論を」「外来受診時の負担金はやむを得ない」など、給付と負担の見直しに理解を示す意見が出されました。

政府が 2018 年末に示した「新経済・財政再生計画改革工程表 2018」や「骨太方針 2018」など（表参照）では、医療分野だけでも、▼75 歳以上の医療費窓口負担の原則 2 割への引き上げや▼75 歳以上の 3 割負担（現役なみ所得）の対象拡大、▼外来受診した際の窓口負担に一定額を上乗せする定額負担の導入、▼所得のみならず預貯金などの資産を含めた負担能力の検討など、多くの負担増の項目が並んでいます。

検討会議では、今後年末までに中間報告、来年夏には最終報告をまとめる予定です。

医療・介護
高齢者医療費窓口負担の原則 1 割から 2 割負担
高齢者医療費 3 割負担「現役なみ所得」の対象拡大（預貯金を含む資産能力に応じた負担へ）
外来受診時の定額負担の導入
介護ケアプラン作成へ自己負担の導入
「要介護 1・2」の生活援助サービス等の保険外し
介護保険施設等の相部屋代負担の徴収

■ 下肢血管再生治療の治験がはじまっています

閉塞性動脈硬化症により重症下肢虚血（動脈硬化などで血液の循環が悪くなり、足の先に酸素や栄養素が送られなくなる血行障害）で困っている患者を対象に、全国 12 の医療機関において、下肢血管再生治療の治験が実施されています。



この治験では、自身の血液中から分離した「CD34 陽性細胞」を用いて治験製品を作り、血管が閉塞して血液が適切に供給されない部位に移植する治療を行います。

CD34 陽性細胞とは、骨髄が血液中に存在する未分化な細胞（幹細胞）で、血管の閉塞した臓器や組織に移植されると、血管を形成する細胞になると考えられています。

治験には参加基準があるため、治験への参加を希望される場合は、まずはかかりつけ医にご相談され、参加基準にあてはまるかをご確認ください。本治験に関する詳細情報をお知りになりたい方は下記お問合せ先にご連絡ください。

問い合わせ先：シミックヘルスケア株式会社
TEL：0120-103-853（平日 9:00～17:00）
ホームページ：<https://www2.tri-kobe.org/clbs12/>